Readers' square

熊本地震

有斐学舎生が募金活動開始

白川真雄21＝大学生（埼玉県）

「私たちの地元熊本のために、募金にご協力お願いします」。池袋の街頭で必死の思いを訴える男子大学生の姿があります。熊本地震を受け、埼玉に所在する熊本県人の男子学生寮「有斐学舎」の学生たちが、街頭での募金活動を開始しました。僕たちは主に東京の大学に進学している熊本県出身者で構成されています。

4月14日の地震。カフェでコーヒーを飲みながらニュースを知った時、僕がいたのは同じ池袋でした。15日に開かれた舎生総会で、募金活動の実施が決まり、その数時間後に再びマグニチュード(M)7・3の地震のニュースが飛び込みました。そして、16日に予定されていた寮の新入生歓迎会は中止となりました。

しかし、熊本地震が舎生の結束をより強固なものとしました。土日の池袋の街頭には、大学の部活を欠席して募金に参加する者、バイト前の空いた時間に募金に参加する者、それぞれができる限りの時間を割いて人の行き交う大都会のど真ん中で、声を枯らしながら声を上げます。全力で、僕たちは故郷を応援しています。

復興に向けてロアッソ応援

五十嵐真51＝社会福祉士（福島県）

J3福島ユナイテッドの試合会場で、昨年福島で活躍したロアッソ熊本の齋藤恵太選手が募金活動に参加していました。ロアッソは震災の影響で、今はサッカーどころではないのではないでしょうか。クラブ発足以来の危機に直面しているといっても過言ではない状況だと思います。

福島ユナイテッドは5年前の東日本大震災当時、東北社会人リーグに属していました。震災と原発事故のため、所属選手の多くが離脱し、チームは存続の危機に陥りました。震災のあとどうにか開幕にこぎつけたものの、ホームの福島県内開催ができず、県外でのアウェーでの試合もなくされるなど、厳しい過酷な状況でしたが、J3リーグ初優勝を果たしたのち、震災の後JFL

高齢の父義母大きな助けに

林田利香52＝育成クラブ指導員（熊本市）

まさか、熊本でこんな大きな地震を体験するとは思ってもおらず、頭が混乱したまま毎日が過ぎていきました。父や義母と言ってくれますが、水をためることや料理の段取りなど、うまく体は動かずともその言葉は侮れないほど頼りがいのあるものです。

義母も未曽有の地震の余震で孫が怖がった時、「大丈夫、ばあちゃんがおるけん」と言ってくれるだけでなんだか安心し

モノクロギャラリー

圧巻のマッターホルン

沖崎幸夫65＝元教師（甲佐町）

私の一字

岩井廉太朗14＝中学生（熊本

全ての事柄は一から始まり、